

「興福寺佛教文化講座」での連続講演

幡鎌一弘

昨年末、興福寺・春日社を主たる素材として、『寺社史料と近世社会』（法藏館）を上梓した。そのこともあって、興福寺教学部から「近世南都の史料を読む」と題する講演の依頼を受け、1年間を通じて毎月第2土曜日の午後、「興福寺佛教文化講座」第2講として講演会を行っている。毎回一つの史料（群）にスポットを当てながら、近世の奈良町の人々の活動や寺社の様子を紹介している。従来、奈良といえば華やかな古代史、寺社の町である中世がクローズアップされ、明治維新の神仏分離という大きな話題に隠れて、近世史は等閑視されがちであった。まがりなりにも、平城遷都以来の1300年の歴史をひもところとするならば、250年あまりの江戸時代（近世）の持つ意味をもっと考えたらどうか、という提案を織り交ぜながら講演を続けている。興福寺の中金堂再建や春日社造替、鹿の角切り、東大寺大仏などは、近世を抜きにしては考えられないのである。

講演には、毎回副題を付けていている。これまでの7回は以下の通りである。①南都の絵図を読む、②「興福寺学侶引付」を読む、③「興福寺衆中引付」を読む、④「二条家旧記目録」を読む、⑤「庁中漫録」を読む、⑥「奈良坊目拙解」を読む、⑦鹿の角切り。

11月以後の残りの5回の予定は以下の通り。⑧「春日大宮若宮御祭礼図」を読む、⑨奈良町と若宮祭礼、⑩「要目録」を読む、⑪興福寺の火事と復興、⑫「芝家日記」を読む。

第12回日本オオサンショウウオの会宇陀大会に参加

佐藤孝則

2015年10月3、4日の2日間、宇陀市内を会場に第12回日本オオサンショウウオの会全国大会が開催され、200名以上の会員が参加した。主催は同会宇陀大会実行委員会、後援に奈良県教育委員会、そして天理大学おやさと研究所をはじめ、橿原市昆虫館、日本サンショウウオセンター、地元教育委員会や高等学校、自治会など10の機関・学校・団体が協力して開催された。

この大会の行事は大きく分けて二つあり、日本各地で調査や保護活動に関わる人たちによる「活動報告」と、夜間の「観察・計測会」である。「活動報告」は宇陀市室生振興センターを会場に、鳥取県南部町立西伯小学校6年生による保護活動の報告や、動物園・水族館での飼育研究の報告、大学や研究機関によるDNA研究の報告など、多岐にわたる21題の口頭発表がおこなわれた。

また、「観察・計測会」は室生川水系・宇陀川のみじ公園周辺域でおこなわれた。参加者は宇陀川に実際に入ってオオサンショウウオを見



宇陀川で捕獲したオオサンショウウオを、参加者が公園に運んで計測しているところ。

つけ出し、タモ網で捕獲し、その個体を公園内に移動させて計測した。捕獲した個体の中には、すでに識別用に体内にマイクロチップが埋め込まれた個体もあれば新規に捕獲した個体もある。新規個体にマイクロチップを埋め込む作業も観察した。オオサンショウウオは「特別天然記念物」であることから、国の許可がないかぎり、触れることも、現状を変更することもできない。それゆえ一般参加者は、普段はほとんど見ることがないオオサンショウウオをじかに見たり触れたりすることができたことから、「観察・計測会」は感動の反響が夜の山々にこだまするほど盛会だった。

『グローバル天理』
合本のご案内

2010年から2014年に出版された『グローバル天理』の合本を頒布しています。これは各1年分（12号分）を1冊にまとめ、簡易製本したものです（頒価は200円）。

合本はご注文を受けて製本しておりますので、研究所事務室にお越しの際は、必ず事前に電話、FAX、もしくはEメールでご連絡ください。なお、郵送による頒布はできかねますので、ご了解ください。

—ご案内—

諸井慶徳博士御誕生100年記念シンポジウム

参加費無料、事前申し込み不要

諸井教学を現代に生かす

日時：立教178年（平成27年）11月25日（水）午後1時～4時30分

場所：ふるさと会館大ホール（天理大学9号棟）

基調講演1 若松英輔氏（批評家）

基調講演2 澤井義次氏（天理大学宗教学科教授）

共催：天理大学宗教学科研究室・諸井慶徳先生勉強会

【問い合わせ】諸井慶徳先生勉強会（代表：望月伸朗）事務局
〒492-8233 愛知県稲沢市奥田町古知野5051-12 天理教明義分教会内（春日義幸）
TEL & FAX：0587-32-8885 E-mail：yoshinori.m1915@gmail.com